

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 学習内容関連書籍を読書学習司書の協力により学級に置いたり、図書委員会による読書活動を啓発する取り組みをしたりしたことで読書の幅が広がり、いろいろな本に親しむ児童が増えた。
- ・ ペア学習やグループ学習を授業の中で積極的に取り入れたことにより、すすんで話し合う姿勢が身に付き、協働的に学ぶ力が向上した。
- ・ 効果測定の数値を目標値を超える項目が多数を挙げた。

(2) 課題

- ・ 5年生の漢字の書き取り、言語の理解に課題がある。
- ・ 4～6年生で、領域にかかわらず、記述して解答する形式の問題にやや課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	・ 基礎力で約7ポイント、活用力で約16ポイント目標値を上回った。また、話すこと・聞くことの領域ではすべての設問で全国の平均を上回った。 ・ 書くことの領域ではすべての設問で全国の平均を大幅に上回った。 ・ ローマ字等の言語の力を問う設問では、約6ポイント全国の平均を下回った。		
第5学年	・ 基礎力約2ポイント、活用力で約6ポイント目標値を上回った。 ・ 「希望」の書き取りの設問では全国の平均から約20ポイント低い正答率であった。 ・ 連体修飾語の理解を問う設問では、全国平均より約14ポイント低い正答率であった。	・ 知識・技能、思考・判断・表現は、目標値を上回った。特に、知識・技能の正答率は3.6ポイント上回った。 ・ 主体的に学習に取り組む態度の正答率は、目標値を3.9ポイント下回った。(第4学年)	
第6学年	・ 基礎力で約7ポイント、活用力で約11ポイント上回った。 ・ 話すこと・聞くことの領域ではすべての設問で全国の平均を上回り、合計で約10%目標値を上回った。	・ 1つの項目（パンフレットをもとに話し合う）以外は目標値を上回った。 ・ 知識・技能、思考・判断・表現の正答率は、目標値を上回った。一方で主体的に取り組む態度の正答率は、目標値を下回った。	・ 知識・技能、思考・判断・表現は、目標値を上回った。特に、知識・技能の目標値は8.3ポイント上回った。 ・ 主体的に学習に取り組む態度の正答率は、目標値を下回った。

	二段落構成で文章を書く設問では、約3ポイント全国の平均を下回った。	率は、目標値を0.3ポイント下回った。(第5学年)	を下回った。(第4学年時)
--	---	---------------------------	---------------

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 主語と述語との関係について理解している」かを問う問題では、60.6ポイントであり、目標値より約10%下回った。 ② 「ローマ字で表記されたものを正しく読む」問題では、正答率が約60.5ポイントであり、目標値より約10ポイント下回った。	① 段落の役割について理解し、二段落構成で文章を書く力を問う問題では、全国の平均より約20ポイント上回った。 ② 話し手が伝えたいことを中心に捉える問題では、区の平均を0.2ポイント下回った。	① 段落の役割について理解し、二段落構成で文章を書く力を問う問題では、思考力とともに、主体的に最後まで自分の考えや理解したことを要約する文章を書いている結果となり、全国の平均より約20ポイント上回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 5年生の漢字の書き取り、言語の理解を問う問題の正答率が20ポイント近く全国平均を下回っている。また、国語の基礎を総合的に評価する指数では、74.6ポイントであり、区の平均を1.2ポイント下回った。 ② 6年生の情報と情報の関係を理解したり、それを基に文章を書いたりする問題の正答率はそれぞれ、46.7ポイント、43.9ポイントと去年に続き、低い正答率となっており、これは全国平均とほぼ横ばいである。	① 5年生の活用力を問う問題の正答率は、60.9ポイントであり約5%目標値を上回っているものの、区の平均を約3ポイント下回っている。特に、記述形式の設問でそれが顕著である。 ② 6年生の資料から読み取ったことを文章にまとめる問題の正答率は、32.7ポイントであり目標値を約12ポイントも下回っている。	① 5年生の活用力を問う問題の正答率は、60.9ポイントであり区の平均を約3ポイント下回っているが、より主体性が求められる記述形式の問題ではさらに課題が浮き彫りになっている。 ② 6年生の主体的な学習に取り組む態度は合計で62.1ポイントであり目標値を約10ポイント上回った。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<読む> ・授業や家庭で音読の時間を確保し、継続的に取り組む。 ・ <u>詩の音読練習</u> を毎日継続して行う。 ・音読・暗唱交流をする時間を設定する。 ・説明文を読んで分かったことや考えたことなどを述べたり、物語を読んで内容や感想を伝え合ったり演じたりする活動を取り入れる。 <書く> ・児童が書くことを楽しみ、書いたものに満足感をもてるように、題材や読み手、用紙を工夫したり、交流会を設定したりする。		・司書教諭や担任による読み聞かせ、読書の時間を通して、図書に触れる機会を増やす。 ・国語の知識や技能、図書資料をすすんで活用するよう、調べて書いたり伝えたりする活動を取り入れる。 ・詩の音読や暗唱に意欲的に取り組めるよう、様々な詩を扱ったり、練習した詩を聞いてもらう場を設けたりする。 ・意欲的に学習に取り組めるように、 <u>ペアや</u>

・簡単な段落構成で文章が書けるように、<u>始め・中・終わりで書く指導をする。</u>	<u>グループ活動、全体での練り上げや対話</u> など形態を変えて学習を行う。
<話す・聞く> ・身近なことなどから<u>話題を決め、スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> ・話題に沿った質問をしたり感想を伝え合ったりして、<u>ペアで楽しくやり取りする活動</u>を多く取り入れる。	
<言語> ・漢字やカタカナを正しく使えるように、日常的に既習漢字やカタカナを使うことを意識させる。 ・定期的に<u>しりとりやことば集めゲーム</u>を行い、語彙力の定着を図る。	

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<読む> ・授業や家庭で音読の時間を確保し継続的に取り組む。 ・段落相互の関係を捉えさせるために、指示語や接続語にも着目させる。 ・説明文では、段落のまとまりを捉えさせるために、<u>段落ごとに小見出し</u>を付けさせる。		・司書教諭や担任による読み聞かせ、読書時間を積極的に設け、様々な種類の本を選んだり、児童に本を紹介したりして、読書の幅を広げる。 ・<u>ペアやグループ活動、全体での話し合いを取り入れる</u>ことで、友達と交流しながら学習できるようにする。 ・漢字ドリルで出てきた進出漢字の熟語を調べる。1日3つの言葉を辞書で引く取り組みをする。 ・分からない言葉が出てきたら、辞書を使って調べる活動を行っている。
<書く> ・感想や説明、報告の文章を書く際は、具体的に書けるように、文章全体の構成を考えて書く。 ・<u>自分の経験や思いについて積極的に取り組めるようにテーマを工夫する。</u>		
<話す・聞く> ・日頃から答え方「はい、〇〇です。」の練習を徹底する。 ・少人数での話し合いの場を設ける。 ・<u>スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> ・テーマに沿った話し合いの場面では、<u>自分と友達の考えの共通点や相違点を考えながら</u>話し合いを進めるよう、ポイントを示す。 ・発表する時には必要に応じて話型を示し、話すことが苦手な児童がすすんで発表できるようにする。		
<言語> ・既習漢字を使うことを徹底して指導する。 ・<u>漢字小テストを実施</u>し、反復して練習に取り組ませる。 ・ローマ字定着のために、<u>キーボードを使って反復練習</u>する。日常的にローマ字を活用し、意識して使う。(ローマ字日記など) ・語彙を増やせるよう、<u>一人一冊の辞書を購入し、調べた箇所に付箋を貼る等、辞書を活用しながら</u>学習を進める。		

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
＜読む＞ ・授業や家庭で音読の時間を確保し、継続的に取り組む。 ・説明文の読み取りでは、文章構成を考えて<u>段落ごとの役割を考えたり、段落ごとに小見出しを付けたり</u>して、書かれている内容や筆者の主張を読み取れるようにする。 ・情景描写や心情を表す言葉の理解と活用を促進する。		・読書時間を積極的に設け、<u>学習内容の関連書籍を紹介したり司書教諭を活用したりして、様々な分類の本に触れさせ</u>、読書の幅を広げる。 ・ペアやグループ活動、<u>全体での話し合い</u>を取り入れ、友達と交流しながら学習できるようにする。 ・詩の暗唱、漢字の音読、マインドマップの活用など、常時活動を積極的かつ継続的に取り組ませる。
＜書く＞ ・決められた制限の中でも文章が書けるように、<u>説明文の要約等において、字数を制限して文を書く場を設定</u>する。 ・「段落のまとまりを捉える問題」は、前年度に引き続き児童の課題になっている。<u>叙述を根拠に、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える必要がある。</u>そのために、段落を計画的に読み取り、考えをまとめる経験をさせる。 ・「一つめの段落では、資料から読み取ったことをまとめ、二つめの段落ではそこから自分が考えたことと、その理由を書く」といった記述形式の問題に多く取り組ませる。		
＜話す・聞く＞ ・話型を提示し、「はじめに結論、次に理由」などと効果測定の記述形式の問題にも応用できるようなスピーチをする 時間を授業内で設定する。 ・<u>少人数での話し合い</u>の場面を多く設け、<u>スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> ・テーマに沿って自分の考えを話す習慣を身に付けさせる。 ・正確に内容を聞き取ることができるように、日頃の授業から集中して話の内容を聞くことや、内容を要点で書き留める力、情報と情報を関連付けて書き留める力を身に付けさせる。		
＜言語＞ ・漢字学習やベーシックドリルを家庭学習として毎日取り組ませる。 ・<u>辞書を廊下に置き、分からない言葉や漢字をすぐに調べる習慣を身に付けさせる。</u> ・週に一回漢字小テストを実施し、反復して練習に取り組ませ、定着させていく。 ・ローマ字を書いたり読んだり、キーボードのタイピングをしたりする時間を授業内に設定し、反復して取り組ませる。 ・発言、記述の時間を増やし、理解した言語を表現する活動を通して、分かる言葉・使える言葉を増やす。		